

大学の世界展開力強化事業
(平成25年度採択)
平成26年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成27年3月2日(月)
独立行政法人 日本学術振興会

■フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）公募要領（抜粋）】

6. その他

(2) 事業の評価等

毎年度ごとにフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）、支援開始から3年目に中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成30年度）に事後評価を実施し、フォローアップ活動及び中間評価の結果は、補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。

また、評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

■ スケジュール

- ・平成26年10月30日
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成26年12月1日～12月3日
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成27年3月2日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成27年3月
フォローアップ結果の公表

■フォローアップの総括

平成25年度に採択された7件のプログラムについて、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成25年度実績(受入・派遣学生数、英語コース及び科目数)等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、平成26年度(採択2年目)からの本格的な学生交流に向けて、試行プログラムを実施している例が報告されている。一方で、海外の情勢不安や受入学生に対する相手国からの奨学金等の課題や問題点も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、全プログラムが平成25年度(採択初年度)の受入・派遣学生数の数値目標を0名と設定していることから、AIMSプログラムの要件である1学期以上の交流期間かつ単位互換及び認定を伴う交流実績はなかった。

今後も、本事業の趣旨に則り、各プログラムがさらに充実し、成果を挙げられることを期待する。

1. 取組の進捗状況

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）平成26年度フォローアップ調査票（以下「調査票」という。）による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における「優れた取組」や「課題等」について、抽出・整理を行った。

- ① 全般的事項
- ② 質保証を伴った付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

① 全般的事項

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○海外連携大学で推薦された受入候補学生に対してテレビ会議システムを用いた二次面接を行い、最終受入候補学生を確定した。受入が決まった学生に対しては、遠隔地教育システムを用いた渡航前日本語教育を実施し、日本での学生生活に備えるよう指導したほか、450以上提供される科目から自分の専攻分野、履修を希望する分野、さらに帰国後の単位互換に合わせてあらかじめ科目を選択させ、スムーズな学修開始に備えさせた。

○キックオフ・シンポジウムでは、当該大学の学生・教職員が参加したほか、平成26年度から提供する企業訪問や中長期インターンシップの実施に向けて協賛を得ることを目的に、民間企業・機関向けのリーフレットを作成して、ASEANに事務所や工場を構える県内企業に案内した。シンポジウムでは、SEAMEO-RIHEDからの招聘者や当該大学担当教員によるプログラム紹介及び海外連携大学からの招聘者による大学紹介を行ったほか、海外連携大学、政府機関及び民間企業が参加したパネルディスカッションを行い、プログラムを広く周知するとともにプログラムへの理解を呼びかけた。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

○平成25年度にタイの治安が不安定となり、学生の派遣を行う予定であったが取りやめ、教員だけの派遣・受入を行った。今後とも、海外の治安については注視するとともに、リスク管理についてさらに強化した取組が必要である。

○受入学生の奨学金支給状況が国によって異なるため、特に低額の奨学金が支給される受入学生に対して、経済的な負担を考慮する必要がある。また、相手国・相手大学がどのような奨学金制度を有するか正確な情報が必要である。

②質保証を伴った付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 新たな単位相互認定制度の概念を活用し、海外連携大学との単位互換は等価として調整を進め、受入・派遣学生の申請書類の一つとして学修計画書を用意し、留学前に学生が作成した学修計画と単位互換計画を、学生、海外連携大学及び当該大学代表者が相互に確認することにより、留学中の学修課程の管理を厳格化した。
- 「学融合」なアプローチを様々な学問領域の視点から学ぶ当該科目は、当該プログラムによる派遣・受入学生に対しては必修科目であるが、他の交換留学生も履修できることから、ASEAN、日本、その他の地域出身の学生が一同に会して、多様性のある授業環境でともに学ぶことができる。
- 海外連携大学での課題解決型学習科目受講へ向けた事前開講科目並びに留学後のフォローアップである事後科目を準備し、他学部の学生に開放するなど、1 Semester留学にとどまらない長期的な教育プログラムを開発した。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 単位互換について日本の大学では1科目2単位のところ、海外連携大学では多くが3単位であり、単位読み替えの大きな障壁となっている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 受入学生専用のHPを立ち上げ情報共有するとともに、受入学生のFACEBOOKアカウントを開設し、受入学生間でのコミュニケーションツールとして活用した。
- 当該学部独自の予算にて受入学生のための奨学金を設立した。平成27年度からの適用開始に向けて準備を進めている。
- 受入学生への支援体制として、学生1名に対し1名の学生チューターを任命し、生活や学修のサポートの充実を図った。なお、日本人学生の留学へのモチベーションを高めるとともに相互の親睦を深めることを期待して、チューターは留学を希望する日本人学生の中から選抜した。
- 派遣に当たっては、選考によって留学が決定した学生に対して、プログラム専任教員が面談形式でガイダンスを行い、留学前、留学中の履修相談をはじめ効果的な留学のための準備を支援する体制を構築した。具体的には、留学の準備状況を項目毎に自己評価し、面談を通じて教員が現時点での達成度を評価し、その評価とともに留学までの準備の仕方を指導するもので、面談は全て英語で行い、派遣学生に留学までの準備工程を組み立てさせ、自発的な取組を促している。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 受入に当たっては、宿舎の確保が大きな課題となっている。今後、受入学生数が増加した場合、性別・宗教等に配慮した宿舎の確保が喫緊の課題である。

④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

【優れた取組(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- ASEAN地域への留学に対する動機づけとして常設のカフェを学内で立ち上げ、プログラム受入学生及びプログラム以外で在籍しているASEANからの留学生を集め、日本人学生との交流の場を設けた。
- 専用ウェブサイトを構築して必要な情報を順次掲載するとともに、プログラム紹介リーフレットを作成・印刷し、キックオフ・シンポジウムや募集説明会等のイベントの場で配布して広報に努めた。また、専用FACEBOOKを立ち上げて、留学情報やイベントをリアルタイムに情報提供した。これらの広報活動を推進するに当たり、当該プログラムをイメージした専用のロゴを作成し、ウェブサイト、関係書類、リーフレット等に掲載して、プログラムの周知とイメージの定着を図った。
- 学生募集やプログラムの内容紹介のためプログラムのパンフレットを作成し日々活用しているが、これに加えプログラムのPRビデオの作成について検討している。内容としては、各連携大学にて現地ロケを行い、現地留学中の派遣学生や教職員のインタビューを取り入れたビデオを制作する予定である。PRビデオはパンフレットとともに、留学フェアや各種説明会、シンポジウムなどで活用するほか、ホームページ上でも公開する予定である。

【課題等(各大学のコメントより抜粋、要約)】

- 語学要件について、欧米を留学先に考えている学生が多く、英語能力も高いものの、アジアのプログラムへの関心はまだ低いと言わざるを得ない。今後はアジア地域の特色への理解促進、関心の喚起に繋がるイベントの企画とともに、アジアの地域研究を担当する教員ともさらに連携し、授業の履修でもプログラムを積極的に紹介するなど、留学する学生の確保に努める。

2. 特筆すべき成果等

調査票による各採択大学からの回答に基づき、特記すべき事項等の中から「特筆すべき成果等」について、抽出・整理を行った。

○単位互換に関する様々な調整を平成25年度に終えたため、プログラムに参加する学生の選定、授業の準備など、スムーズに行うことができた。現在、受入・派遣を行っている学生及び教員に対して、随時、インタビューを行い、柔軟なプログラムの実施を行っている。学生からの授業の評価は高く、特に正規の授業科目以外に、学生らによる自主的な実習参加もあり、限られた期間内で充実したプログラムとなった。受入・派遣学生らは非常に熱心に授業に取り組んでおり、他の学生に対する刺激にもなっている。

(○北海道大学、東京大学、酪農学園大学)

○ORIHEDが予定しているAIMSプログラムの拡大計画に先行して、試行的にAIMSプログラムに参加していない他のASEAN諸国からの受け入れを行っている。具体的には、ラオス国立大学(ラオス)、王立農業大学(カンボジア)から4名ずつの学生を受け入れた。また、平成27年度にはパテイン大学(ミャンマー)または家人農業大学(ミャンマー)からの受け入れも計画している。(筑波大学)

○受入学生をサポートするバディが119名集まり、受入学生のサポートを積極的に行っている。

(○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京)

○タイ国は1科目が3単位であることから、単位相互認定制度の概念に基づく3単位＝3単位の互換を実施するため、共通基礎科目及び専門科目においてシラバスを工夫し、2単位の講義＋1単位の実習やレポート付加などの組み合わせの授業科目を用意し、海外連携大学とシラバスの摺り合わせを行った。(広島大学)

○日本のAIMS参加大学として、高等教育の国際化、東アジア、東南アジアの高等教育における調和化とネットワーキングに資するべく、平成26年12月13日に国際シンポジウムを開催した。シンポジウムには国際教育研究の第一人者であるジェーン・ナイト氏(トロント大学特任教授)をはじめ、国内外の専門家を幅広く招き、本学のSAIMSプログラムの成果の発表にとどまらず、プログラムの母体となっている東南アジア諸国大学間の学生交流プログラムを鍵として、国境を越えた高等教育機関の連携、ネットワーキングのあり方を議論し、国内外の高等教育の専門家が一堂に会する国際会議として、日本の高等教育を牽引する大変意義深いものとなった。(上智大学)

○本学では、本部組織である国際部が大学全体の国際化事業を統括し、留学プログラムの全学体制整備やリスク管理等は附属機関である留学センターが行っている。万が一事故が発生した場合は、国際教養学部と関係学部、留学センターが協同で対策本部を設置し、この対応にあたる。派遣学生に対しては、本学が包括契約している海外旅行保険の加入を義務付け、24時間体制による専用のサポートデスクを設けている。また、海外で使用できる携帯電話を派遣学生全員に配付し、連絡手段を確保している。(早稲田大学)

○政策科学部では、これまで国際課題解決型学習を長年にわたって実施してきた実績があり、また本プログラムへ向けた教学的準備もすでに整っていたので当該学習やG30プログラム履修生等との交流など、現行のカリキュラムにおいても難なくプログラムを実施することができた。(立命館大学)

3. 交流学生数の実績(1)

(1-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について 【全体の状況】

①目標

○平成25年度は、全てのプログラムにおいて達成目標を「0名」と設定。

②実績

○全てのプログラムにおいて、AIMSプログラムの要件である1学期以上の交流期間かつ単位互換及び認定を伴う受入実績はなかった。

○次年度からの本格的交流に向けた準備として、試行的に受入を実施したプログラムが3件あり、うち1件は単位互換を行っている。

(1-2) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【試行的に受入を実施したプログラム】

- 平成25年度については先行して、一学期以上のASEAN地域への留学への動機づけを目的とした、10日～2週間のパイロットプログラムを実施し、受入46名(タイ・フィリピン・マレーシア・カンボジア・ラオスなど)の学生交流を実施した。なお、パイロットプログラムによる受入学生46名のうち30名については、個々に既存の国際研修科目等との互換により、単位の取得がなされている。(筑波大学)
- 平成26年3月に、短期受入プログラムを実施した。東京農工大学は、マレーシア、インドネシアから20名、茨城大学はインドネシアから6名の学生を受け入れ、本コンソーシアムで合計26名を受け入れた。(○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京)
- 食品科学・農学分野では試行プログラムを実施し、カセサート大学の学生4名を受け入れた。日本とASEANでは授業スタイルや単位数が違うため、まずはタイの教員、学生に日本での講義や教育環境を伝えることにより両者の理解が深まり、併せて授業シラバス内容の摺合せ、成績評価基準の照合を行うことにより、本プログラムでの学生受入を円滑に進めることができた。(広島大学)

3. 交流学生数の実績(2)

(2-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

① 目標

○平成25年度は、全てのプログラムにおいて達成目標を「0名」と設定。

② 実績

○全てのプログラムにおいて、AIMSプログラムの要件である1学期以上の交流期間かつ単位互換及び認定を伴う派遣実績はなかった。

○次年度からの本格的交流に向けた準備として、試行的に派遣を実施したプログラムが4件あり、うち2件は単位互換又は認定を行っている。

(2-2) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【試行的に派遣を実施したプログラム】

- 先行して、一学期以上のASEAN地域への留学への動機づけを目的とした、10日～2週間のパイロットプログラムを実施し、派遣86名(タイ・フィリピン・マレーシアなど)の学生交流を実施した。なお、パイロットプログラムによる派遣学生86名のうち40名については、個々に既存の国際研修科目等との互換により、単位の取得がなされている。(筑波大学)
- 平成26年3月に異文化交流を目的とした短期派遣プログラムを実施した。東京農工大学はマレーシアに20名、茨城大学はインドネシアに22名の学生を派遣し、合計42名を派遣した。なお「海外特別実習」として単位が認定されている学生もいる。
(○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京)
- 食品科学・農学分野では試行プログラムを実施し、カセサート大学へ日本人学生5名を派遣した。派遣先では、学生が授業レベルや学習環境などを実体験し、留学生活のイメージを描くことができた。派遣学生5名のうち、平成26年度に4名が本プログラムにより留学した。
(広島大学)
- 平成25年度は、パイロットプログラムとして合計30名の学生(マレーシア9名、フィリピン6名、ブルネイ15名)を派遣し、これにより、現地での生活や学校の雰囲気について、学生の視点から報告を受けることができ、派遣学生への情報提供に役立った。(早稲田大学)

4. 英語コース及び科目数の実績

【全体の状況】

①AIMSプログラムにおける英語によるコース数

○平成25年度に設置することとしたコース数(13コース)の目標は、全てのプログラムにおいて達成。

※○北海道大学・東京大学・酪農学園大学、広島大学、立命館大学の目標は「0」

○平成29年度までに設置することとしているコース数(27コース)に対する進捗割合は48.1%。

②英語による授業の科目数

○全授業科目数に対する英語による授業科目数の割合は、目標を達成。

	割合	全授業科目数	英語授業科目数
目標	4.8%	71,239科目	3,419科目
実績	4.9%	53,434科目	2,613科目
差	+0.1%		

○AIMSプログラムにおける英語による授業科目数[単位数]の設置実績は、ほぼ目標を達成。

	英語授業科目数 [単位数]	
目標	871科目	1,325.5単位
実績	842科目	1,271.5単位
差	▲29科目	▲54 単位

※プログラムごとの英語コース及び科目数の詳細は別表参照

別表:プログラムごとの英語コース及び科目数(平成25年度)

(※) コースとは、卒業要件単位に算入できる
一定の科目群を体系的にまとめたものをいう。

		H25.5.1現在の英語による授業の科目数	AIMSプログラムにおける英語によるコース(※)数			全授業科目数(A)		うち全体の英語による授業の科目数(B)		うちAIMSプログラムにおける授業科目数(C) [単位数]			割合(B/A)		割合(C/B)	
			目標	実績	差	目標	実績	目標	実績	目標	実績	差	目標	実績	目標	実績
○北海道大学、 東京大学、 酪農学園大学	日本とタイの獣医学教育連携:アジアの健全な発展のために	240	0	0	0	16,258	11,804	892	327	0	0	0	5.5%	2.8%	0.0%	0.0%
										科目	科目					
筑波大学	アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム	719	7	7	0	7,759	7,759	719	719	719	719	0	9.3%	9.3%	100.0%	100.0%
										科目	科目					
○東京農工大学、 茨城大学、 首都大学東京	ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成	86	4	4	0	6,407	7,523	86	123	0	0	0	1.3%	1.6%	0.0%	0.0%
										科目	科目					
広島大学	アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人財教育プログラム	92	0	0	0	6,502	5,457	92	79	0	0	0	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%
										科目	科目					
上智大学	多様性の調和を目指す学融合型の人間開発教育プログラム	300	1	1	0	3,069	3,069	300	300	83	83	0	9.8%	9.8%	27.7%	27.7%
										科目	科目					
早稲田大学	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム	1,126	1	1	0	27,319	13,897	1,126	861	60	32	▲ 28	4.1%	6.2%	5.3%	3.7%
										科目	科目					
立命館大学	国際PBLによるイノベータ育成プログラム	127	0	0	0	3,925	3,925	204	204	9	8	▲ 1	5.2%	5.2%	4.4%	3.9%
										科目	科目					
計		2,690	13	13	0	71,239	53,434	3,419	2,613	871	842	▲ 29	4.8%	4.9%	25.5%	32.2%
										科目	科目					